

H27-B-3 16.31~22.45m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
36	16.31	16.31	50° 割れ目ぞい幅5~15mm/半固結状白色シルト~粘土はさむ。	16.31	16.31	50° 割れ目ぞい幅5~15mmや硬質な白色シルト~粘土はさむ。	16.31	16.31	16.31m:50° の割れ目ぞいに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。	
37	16.49	16.49	35° 割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。	-	-		16.49	16.49	16.49m:35° の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。	
38	16.76	16.87	φ10~20mmの岩片状。岩片間は幅1~2mm程度砂状化。	16.76	16.87	φ10~20mmの岩片状。岩片間は幅1~2mm程度砂状化。	16.76	16.87	16.76~16.87m:径10~20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。	
39	17.13	17.31	割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰色粘土をはさむ。	17.13	17.31	割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰色粘土を挟む。	17.13	17.31	17.13~17.31m:割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰色粘土を挟む。	
40	17.40	19.00	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	17.40	19.00	密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃でこれら割れ目ぞいの一部は分離、細片化する。既に割れ目化し、開口しているものも多い。	17.40	19.00	17.40~19.00m:密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。	
41	17.85	18.00	割れ目が交差。一部φ20~30mmに岩片化。粘土や砂は挟まない。	17.85	18.00	割れ目が交差。一部φ20~30mmに岩片化。粘土や砂は挟まない。	17.85	18.00	17.85~18.00m:割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。	
42	18.05	18.47	酸化変質により石英量多くなり硬化している。	-	-		18.05	18.47	18.05~18.47m:酸化変質により石英量が多くなり硬化する。	
43	18.43	20.04	一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	18.43	20.04	一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	18.43	20.04	18.43~20.04m:一部の割れ目ぞいや岩芯がマンガン鉱染を受け、黒褐色化するが劣化は伴わない。	
44	18.90	18.90	50° 割れ目幅1~5mm/淡黄褐色色はさむ。	18.90	18.90	50° 割れ目幅1~5mm/淡黄褐色色砂挟む。	18.90	18.90	18.90m:50° の割れ目に幅1~5mmの淡黄褐色色砂を挟む。	
45	19.59	19.59	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に切られる。80° 割れ目は19.05mで幅10mm/砂状化するが下位に向かうにつれて割れ目は閉じて行き、砂の挟持物も分布しなくなる。	19.59	19.59	40° と80° 割れ目が交差。80° 割れ目は40° 割れ目に止まれる。切られていない。80° 割れ目は19.05mで幅10mm/砂状化するが下位に向かうにつれて割れ目は閉じていき、砂の挟持物も分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19.59	19.59	19.59m:40° と80° の割れ目が交差し、80° の割れ目は40° の割れ目に止まれる。80° の割れ目は19.05mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向かって割れ目は閉じていき、砂の挟持物も分布しなくなる。40° の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩盤に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
46	20.04	20.93	CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟持物は殆ど分布しない。	-	-		20.04	20.93	20.04~20.93m:CM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁するが、未変質で残留するものが多い。割れ目に挟持物は殆ど分布しない。	
47	20.93	26.70	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、幅1~2mm/軟質白色粘土土脈をはさむ。上縁側の22.69m以深は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟持物が分布しないものが多い。	20.93	26.70	CL 45° 前後の割れ目主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、幅1~2mm/軟質白色粘土土脈を挟む。また、幅1~2mm/軟質白色粘土土脈を挟む。上縁側の22.69m以深は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟持物が分布しないものが多い。	20.93	26.70	20.93~26.70m:CL 45° 前後の割れ目が主体。一部で70~90° の高角度割れ目と交差する。割れ目ぞいに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、幅1~2mmの軟質白色粘土土脈を挟む。また、幅1~2mmの軟質白色粘土土脈を挟む。上縁側の22.69m以深は硬さ「D」、22.69~23.71mは硬さ「C」、23.71m以深は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の区間では割れ目に挟持物が分布しないものが多い。	
48	-	-		21.14	21.24	上縁42°、下縁49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進んでいる。酸化、マンガン鉱染が見られる。	21.14	21.24	21.14~21.24m:上縁42°、下縁49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が見られる。	
49	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」岩片で砂礫状を呈する。粘土は殆んど伴わない。	21.55	21.65	風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」岩片で砂礫状を呈する。粘土は殆んど伴わない。	21.55	21.65	21.55~21.65m:風化による砂状部と硬さ「C」ない「D」の岩片で砂礫状を呈する。粘土は殆んど伴わない。	
50	21.70	22.40	高角度割れ目を主体に、厚さ1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質白色粘土土脈が分布。	21.70	22.40	高角度割れ目を主体に、厚さ1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質白色粘土土脈が分布。	21.70	22.40	21.70~22.40m:高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質白色粘土土脈が分布する。	
51	22.03	22.63	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mm/砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	22.03	22.63	70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mm/砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	22.03	22.63	22.03~22.63m:70~90° で湾曲して連続する割れ目ぞいに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。	
52	22.10	22.45	一部に硬さ「C」岩片伴う。	22.10	22.45	一部に硬さ「C」岩片伴う。高角度割れ目ぞいが風化している。	22.10	22.45	22.10~22.45m:一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目ぞいが風化する。	

H27-B-3 22.50~26.90m

コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
53	22.50	22.64	上端60° 幅2~3mm褐色粘土系、下端45° 幅1mm褐色砂に囲まれて軟質化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土系を網状に伴う。	22.50	22.64	上端60° 幅2~3mm褐色粘土系、下端45° 幅1mm褐色砂に囲まれて軟質化著しく、一部で幅0.5mm白色粘土系を網状に伴う。	・表現の適正化(mm、軟質化)	22.50	22.64	22.50~22.64m:上端60°で幅2~3mmの褐色粘土系、下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土系を網状に伴う。
54	22.91	23.49	40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~80° 斜交する60~80° 割れ目を切る切欠がある。	22.91	23.49	40° 前後の割れ目が同方向に分布。これらに直交~80° 斜交する60~80° 割れ目を止める切欠がある。 40° 割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩壁に劣化が認められない。	・40° 前後の割れ目と直交する割れ目は横断するものも見られ、また、ズレの量も系統的ではない。 ・割れ目及び周辺の状態について追記した上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「切る」を「止める」に変更した	22.91	23.49	22.91~23.49m:40° 前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~80° 斜交する60~80° の割れ目を止めることがある。40° の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩壁に劣化が認められない。
55	23.45	23.71	幅1~3mm軟質白色粘土系をほぼ80° 割れ目が分布。	23.45	23.71	幅1~3mm軟質白色粘土系を挟む80° 割れ目が分布。	・表現の適正化(挟む、mm)	23.45	23.71	23.45~23.71m:80° で幅1~3mmの軟質白色粘土系を挟む。
56	23.71	24.53	軟化し硬さ「D」主体。	23.71	24.53	軟質化し、硬さ「D」主体。	・表現の適正化(軟質化)	23.71	24.53	23.71~24.53m:軟質化し、硬さ「D」主体。
57	23.71	23.95	80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染に伴う。	-	-	-		23.71	23.95	23.71~23.95m:80~90° の高角度割れ目はマンガン鉱染に伴う。
58	24.06	24.22	硬さ「C」主体。	-	-	-		24.06	24.22	24.06~24.22m:硬さ「C」主体。
59	24.37	24.37	45° 厚さ2mm石英脈	24.37	24.37	45° 厚さ2mm石英脈	・表現の適正化(mm)	24.37	24.37	24.37m:45° で幅2mmの石英脈を挟む。
60	24.53	26.70	硬さ「D」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	24.53	26.70	硬さ「D」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。	・表現の適正化(やや)	24.53	26.70	24.53~26.70m:硬さ「D」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。
61	24.60	24.92	80~90° 割れ目に厚さ1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	24.60	24.92	80~90° 割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。	・表現の適正化(厚=幅、挟む、mm)	24.60	24.92	24.60~24.92m:80~90° の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。
62	25.00	25.81	25.00~25.81m及び25.09~25.28m、85~90° 割れ目に厚さ1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。	25.00	25.81	25.00~25.81m及び25.09~25.28m、85~90° 割れ目に厚さ1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。 一部で風化により軟化し硬さ「D」の部分も認められる。	・表現の適正化(挟む、mm、軟質化)	25.00	25.81	25.00~25.81m及び25.09~25.28m:85~90° の割れ目に幅1~2mmで一部マンガン鉱染で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し、硬さ「D」の部分も認められる。
63	25.80	-	25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	25.80	-	25.80m以深で割れ目多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。	・表現の適正化(深い)	25.80	-	25.80m以深は割れ目が多くなる。割れ目ぞいに砂状化する部分が多い。
64	26.22	26.22	50° 割れ目は交差する高角度割れ目を切っている。(左ズレ、5m/m)	26.22	26.22	50° 割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。切っ先は左ズレ(5mm)の割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。	・50° 割れ目の深い側に高角度割れ目1条、深い側に2条あり、系統的な状況として認められない。また、50° 割れ目と交差する幅1mm程度の石英脈が見られるため「切っている」を「止めている」に変更し、交差量についての記載を削除した。 ・割れ目の挟む物について追記した	26.22	26.22	26.22m:50° の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。
65	26.70	26.90	破砕帯(主せん断面26.70m)	26.70	26.90	破砕帯(最新活動面26.71m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・最も直線的な面として最新活動面深度を26.71mに変更した	26.70	26.90	●26.70~26.90m:破砕部 26.70m:粘土状部(Hc-1) 破砕43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m:粘土混じり塊状部(Hg) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土土~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土土(Hc-1)を挟む。下端は幅1~2mmの粘土系を伴う。灰白色を呈する。幅180~180mm。
66	26.70	26.70	Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm以下。	26.70	26.70	Hc-1 43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟質粘土土(ガウジ)。色調は淡黄色(2.5Y8/3)。厚さ1mm以下。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1)に言わずで表現 ・表現の適正化(mm) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 ・簡記の修正(「色」の記載漏れ)	26.70	26.90	●26.70~26.90m:破砕部 26.70m:粘土状部(Hc-1) 破砕43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m:粘土混じり塊状部(Hg) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土土~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土土(Hc-1)を挟む。下端は幅1~2mmの粘土系を伴う。灰白色を呈する。幅180~180mm。
67	26.70	26.90	Hb 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5~10mm粘土土~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質粘土混じり塊状を呈する。 下端は厚さ1~2mmの粘土系。色調は灰白(2.5Y8/2~7.5Y8/2)。厚さ160~180mm	26.70	26.90	Hb 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5~10mm粘土土~硬さ「D」岩片を20~30%含む軟質粘土混じり塊状を呈する。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土土(Hc-1)を挟む。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。 下端は厚さ1~2mmの粘土系。色調は灰白色(2.5Y8/2~7.5Y8/2)。厚さ160~180mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・塊主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・26.71mの直線的な粘土土の挟む物について追記した ・表現の適正化(やや、mm) ・簡記の修正(「色」の記載漏れ)	26.70	26.90	●26.70~26.90m:破砕部 26.70m:粘土状部(Hc-1) 破砕43° で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.90m:粘土混じり塊状部(Hg) 上端43° で直線的に、下端54° でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土土~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。 26.71mに幅1mmで直線的な灰白色粘土土(Hc-1)を挟む。下端は幅1~2mmの粘土系を伴う。灰白色を呈する。幅180~180mm。

H27-B-3 26.70~29.12m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
68	26.70	26.90	(破砕度区分)Hb	26.70	26.90	(破砕度区分)Hb	26.70	26.90	(破砕度区分)Hb	
69	28.90	27.57	D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。	-	-	-	26.90	27.57	26.90~27.57m:D 27.00m以浅は砂礫状、27.00m以深はバラけた礫状を呈するが、27.00m以深も本来は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。	
70	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片も残存するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ごとに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	27.57	28.12	CL 硬さ「C」岩片主体である。も残存するが、全体的には硬さ「D」に軟化。 割れ目ごとに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	27.57	28.12	27.57~28.12m:CL 硬さ「C」の岩片主体である。割れ目ごとに薄く砂や粘土をはさむことが多い。	
71	-	-	-	27.98	27.98	37° 割れ目に幅10mmの白色シルトを挟在する。	27.98	27.98	27.98m:37° の割れ目に幅10mmの白色シルトを挟在する。	
72	28.12	28.14	(岩粒区分)D	28.12	28.14	(岩粒区分)CL	28.12	28.14	(岩粒区分)CLに含める	
73	28.12	28.14	破砕帯(主せん断面28.12m)	28.12	28.14	破砕部(最新活動面28.12m)	28.12	28.14	●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。	
74	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	28.12	28.12	Hc-1 43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は浅黄(7.5YR7/3)。厚さ1~3mm。	28.12	28.12	●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:硬質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる組織について追記した。 ●幅をコアに合わせて変更した。「径3~5mmの岩片を含む」の記載と不整合である。	
75	28.12	28.14	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり、「硬質砂状」を呈する。 色調は浅黄(10YR7/4)。厚さ5~7mm。 色調は浅黄(10YR7/4)。厚さ1~3mm。	28.12	28.14	Hb 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなり、「硬質砂状」を呈する。 色調は浅黄(10YR7/4)。厚さ5~7mm。 色調は浅黄(10YR7/4)。厚さ1~3mm。	28.12	28.14	●28.12~28.14m:破砕部 28.12m:粘土状部(Hc-1) 傾斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、浅黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m:硬質砂状部(Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。浅黄褐色を呈する。幅5~7mm。	
76	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb	28.12	28.14	(破砕度区分)Hb	
77	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕部主せん断面と同方向に近い40~60°で分布する。	28.14	29.10	CL 硬さ「C」主体で、下端側の28.85m以深で硬さ「D」と風化で軟化。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。	28.14	29.10	28.14~29.10m:CL 硬さ「C」主体で、28.85m以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。	
78	29.10	29.12	(岩粒区分)D	29.10	29.12	(岩粒区分)CL	29.10	29.12	(岩粒区分)CLに含める	
79	29.10	29.12	破砕帯(主せん断面29.10m)	29.10	29.12	破砕部(最新活動面29.10m) 最新活動面は上端か上端に近い面(共に29.10m)の可能性が高い。	29.10	29.12	●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で続状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:硬質粘土状部(Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質、オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	
80	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側 灰白色(10YR8/2)、中央 灰黄褐色(10YR4/2)、下端側 灰黄褐色(10YR6/2)の続状様様を呈する。厚さ5~10mm。	29.10	29.11	Hc-1 上端49°で直線的、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質~半固結状粘土(ガウジ)。 色調は、上端側 灰白色(10YR8/2)、中央 灰黄褐色(10YR4/2)、下端側 灰黄褐色(10YR6/2)の続状様様を呈する。厚さ5~10mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	29.10	29.11	●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で続状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:硬質粘土状部(Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質、オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	
81	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化岩片を20%程度含む。やや硬質の硬質粘土状を呈する。色調はオリブ色帯びた灰白色(7.5YR/2)。厚さ7~11mm。	29.11	29.12	Hb 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化岩片を20%程度含む。やや硬質の硬質粘土状を呈する。色調はオリブ色帯びた灰白色(7.5YR/2)。厚さ7~11mm。含まれる細粒部は新自然に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	29.11	29.12	●29.10~29.12m:破砕部 29.10~29.11m:粘土状部(Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む軟質、上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄褐色で続状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m:硬質粘土状部(Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質、オリブ色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。	

H27-B-3 29.12~35.94m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事		記事		記事		記事			選定した記事内容				
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度			
		CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。		CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。				29.12	30.56	29.12~30.56m:CL 30.02m以深は硬さ「D」、以深は硬さ「C」主体。			
82	29.12	30.56		29.12	30.56								
83	-	-		29.47	29.59	網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。		29.47	29.59	29.47~29.59m:網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱染が見られる。			
84	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。	30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。		30.55	30.55	30.55m付近をはじめ、割れ目ぞいに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。			
85	29.15	29.60	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	28.15	29.60	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。		29.15	30.56	29.15~29.60m、30.30~30.56m:割れ目ぞいや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。			記事内容が同じであるため、30.30~30.56mの深度もきめて記載した
86	30.00	31.00	(ROD欄)36 (最大コア長欄)26	30.00	31.00	(ROD欄)44 (最大コア長欄)34		30.00	31.00	(ROD欄)44 (最大コア長欄)34			
87	30.30	30.56	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	30.30	30.56	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。		-	-	-			上記にまとめ書きしたため記載しない
88	30.56	32.21	CH 堅硬、割れ目挟持物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。	30.56	32.21	CH 堅硬、割れ目挟持物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。コア中には密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。		30.56	32.21	30.56~32.21m:OH 堅硬、割れ目の挟持物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。			
89	31.30	31.30	31.30m付近は割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。	31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。		31.30	31.30	31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状(コア長5cm前後)に砕けている。			
90	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。	31.62	31.66	上下端とも50°割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。		31.62	31.66	31.62~31.66m:上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈をはさむ。			
91	32.11	32.11	40°割れ目を厚さ15~20mmで緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。φ0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。	32.11	32.11	40°割れ目が厚さ15~20mmで緑泥石化し、色調が淡緑灰色化する。φ0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。		32.11	32.11	32.11m:40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。劣化や粘土化はない。			
92	32.21	33.09	CM 一部で挟持物をはさむがはさまない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。	32.21	33.09	CM 一部で挟持物を挟むが挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。		32.21	33.09	32.21~33.09m:CM 一部を除き、挟持物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口化している。			
93	33.30	33.53	割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。	32.30	32.53	割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。		32.30	32.53	32.30~32.53m:割れ目ぞいや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。			
94	32.53	32.53	45°厚2mm軟質黄褐色粘土をはさみ、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。	32.53	32.53	45°幅2mm軟質黄褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。		32.53	32.53	32.53m:45°で幅2mmの軟質黄褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。			
95	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。	33.09	34.20	CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これら割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深では硬さ「C」の岩片も多く含むようになる。		33.09	34.20	33.09~34.20m:CL 60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~収れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は硬さ「C」の岩片も多く含む。			
96	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm、やや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。	34.20	34.20	40°割れ目は厚さ2~3mm、やや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。		34.20	34.20	34.20m:40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈をはさむ。			
97	34.20	35.94	CM 殆ど割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。	34.20	35.94	CM 殆ど割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。		34.20	35.94	34.20~35.94m:CM 殆ど割れ目に挟持物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した長石が多い。			

H27-B-3 35.31~41.95m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度		選定した記事内容			
98	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5mm/砂状化。	35.31	35.31	60° 割れ目ぞい厚さ3~5mm/砂状化。	・表現の適正化(ぞい, mm)	35.31	35.31	35.31m: 60° の割れ目ぞいに幅3~5mmが砂状化する。		
99	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が切られる(変位量不明)。	35.47	35.47	5° 割れ目で90° 割れ目が止められる, 切られる(変位量不明)。 5° の割れ目に細粒部は認められない, 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。	・90° 割れ目は一連の割れ目ではない(5° 割れ目直近での姿勢が異なる)ため「切られる」に変更し, 変位量についての記載を削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した	35.47	35.47	35.47m: 5° の割れ目で90° の割れ目が止められる, 5° の割れ目に細粒部は認められない, 割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ, 系統的な割れ目も存在しない。		
100	35.94	37.30	CH 堅硬, 割れ目挟持物も分布しない。	35.94	37.30	CH 堅硬, 割れ目挟持物も分布しない。	・記載の修正(挟持物=挟在物)	35.94	37.30	35.94~37.30m: CH 堅硬, 割れ目に挟在物は分布しない。		
101	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし, 密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	36.07	36.32	割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが劣化は伴わない。ただし, 密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	・表現の適正化(ぞい, 様)	36.07	36.32	36.07~36.32m: 割れ目ぞいや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが, 劣化は伴わない, 密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。		
102	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目は交差する割れ目を切っている(変位量不明)。	37.03	37.03	57° 割れ目ぞいの一部で厚さ3mm前後が砂~細片化する。この57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m, 37.08mに見られる。切っっている(変位量不明)。 57° の割れ目の砂~細片化は連続性に乏しく, 割れ目周辺の原岩組織は認められ, 系統的な割れ目も存在しない。	・57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m, 37.08mに見られるため「切っっている」を削除し, 潜在割れ目について記載した。変位量についての記載は削除した。 ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・表現の適正化(ぞい, mm)	37.03	37.03	37.03m: 57° の割れ目ぞいの一部で幅3mm前後が砂~細片化する。 57° の割れ目を横断する潜在割れ目が37.05m, 37.08mに見られる。 57° の割れ目の砂~細片化は連続性に乏しく, 割れ目周辺の原岩組織は認められ, 系統的な割れ目も存在しない。		
103	37.30	37.55	(岩級区分) CM	37.30	37.55	(岩級区分) CL	・区間長が50cm未満のため, 下位のCL線に含めた	37.30	37.55	(岩級区分) CLに含める		
104	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	37.30	37.55	CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。	・表現の適正化(やや, 軟質化)	37.30	37.55	37.30~37.55m: CM 直上位に比べ岩片がやや軟質化する。		
105	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状量する。	37.55	37.69	CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進んでいる。マンガンは砂状量する。	・表現の適正化(軟質化)	37.55	37.69	37.55~37.69m: CL 上下端をマンガン脈に囲まれ軟質化が進む。マンガンは砂状を量する。		
106	37.69	37.81	(岩級区分) D	37.69	37.81	(岩級区分) CL	・区間長が50cm未満のため, 周囲の岩級に含めた	37.69	37.81	(岩級区分) CLに含める		
107	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。幅1m以下の白色粘土層も伴う。	37.69	37.81	D 50~60° 割れ目ぞいに風化による砂状化進む。幅1mm以下の白色粘土層も伴う。	・表現の適正化(ぞい, 幅, mm)	37.69	37.81	37.69~37.81m: D 50~60° の割れ目ぞいに風化で砂状化が進む。幅1mm以下の白色粘土層も伴う。		
108	37.81	38.90	CL	-	-	-		37.81	38.90	37.81~38.90m: CL		
109	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化, 砂状化進む。また少量の厚さ1~2mm/白色~褐色軟質粘土層も伴う。	38.21	38.21	38.21m以深では50° 前後の割れ目ぞいに風化, 砂状化進む。また少量の厚さ1~2mm/白色~褐色軟質粘土層も伴う。	・表現の適正化(ぞい, mm)	38.21	38.21	38.21m以深は50° 前後の割れ目ぞいに風化, 砂状化進む。また, 少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土層も伴う。		
110	38.50	39.14	CM 一部でゆる割れ目を含むが密着度は高く, ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-		38.50	39.14	38.50~39.14m: CM 一部でゆる割れ目を含むが, 密着度は高く, ハンマーの強打でも分離・細片化しない。		
111	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3mm/までは含むことが多い。	39.14	40.79	CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を厚さ1~3mmで挟むことが多い。	・表現の適正化(挟む, mm)	39.14	40.79	39.14~40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分離・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1~3mmで挟むことが多い。		
112	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2mm/の軟質粘土層挟む。	40.14	40.26	50~60° 割れ目に厚さ1~2mmの軟質粘土層挟む。	・表現の適正化(挟む, mm)	40.14	40.26	40.14~40.26m: 50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土層を挟む。		
113	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み, 割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み, 割れ目ぞいの砂状化も拡大する。	・表現の適正化(軟質化, ぞい)	40.42	-	40.42m以深は岩片自身の軟化が進み, 割れ目ぞいの砂状化も拡大する。		
114	-	-	-	40.72	40.72	50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。	・灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	40.72	40.72	40.72m: 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。		
115	40.79	41.83	CM 一部の割れ目を除き, 割れ目の挟持物は分布しない。	-	-	-		40.79	41.83	40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き, 割れ目に挟持物は分布しない。		
116	41.30	-	41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では既に開口化している。	-	-	-		41.30	-	41.30m以深は密着度の低い割れ目が多い。一部では開口化する。		
117	41.30	41.30	60° 割れ目ぞいにφ2~4mm/石英が多く露出している。	41.30	41.30	60° 割れ目ぞいにφ2~4mm/石英が多く露出している。	・表現の適正化(ぞい, mm)	41.30	41.30	41.30m: 60° の割れ目ぞいに径2~4mmの石英が多く露出している。		
118	41.83	41.95	(岩級区分) D	41.83	41.95	(岩級区分) CL	・区間長が50cm未満のため, 下位のCL線に含めた	41.83	41.95	(岩級区分) CLに含める		

H27-B-3 41.83~45.40m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を考慮して表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
119	41.83	41.95	D 上端80° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭化。	41.83	41.95	D 上端80° 下端55° 割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭化。			41.83~41.95m: D 上端80°、下端55° の割れ目に囲まれ砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。	
120	41.95	42.78	CL 割れ目は直下の破砕帯と主せん断面と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土層や砂の薄層をはさむ。長石の一部が白濁化している。	41.95	42.78	CL 割れ目は直下の破砕帯の上端境界と同方向の40~50° 割れ目が主体。 割れ目の多くに粘土層や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。			41.95~42.78m: CL 割れ目は直下の破砕帯の上端境界と同方向の40~50° の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土層や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。	
121	42.36	42.40	42.36~42.40mは上下端とも40° 割れ目に囲まれて風化・砂状化。	-	-	-			42.36~42.40m: 上下端とも40° の割れ目に囲まれて風化・砂状化する。	
122	42.78	43.00	(岩級区分欄)D	42.78	43.00	(岩級区分欄)CL			42.78~43.00m: (岩級区分欄)CLに含める	
123	42.78	42.85	D 風化で著しく軟化するが、岩組織や割れ目の一部は残留している。	42.78	42.85	D 風化で著しく軟化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留している。			42.78~42.85m: D 風化で著しく軟化するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	
124	42.85	42.91	破砕帯(主せん断面42.85m)	42.85	42.91	破砕帯(最新活動面42.85m)			42.85~42.91m: 破砕帯 42.85~42.87m: 粘土混じり層状部(H) 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明黄褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さD)岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土層が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ50mm。	
125	42.85	42.87	Hc-2 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。 径1~2mm石英粒、径5mm粘土化岩片を20%程度含む半固結粘土(ガウジ)。 上端1~2mmは風化で褐色(明黄褐色)。 色調は灰白(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。	42.85	42.87	Hc 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。 径1~2mm石英粒、径5mm粘土化岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 上端1~2mmは風化で褐色(明黄褐色)。 色調は灰白(2.5Y8/1)。厚さ15~25mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			42.85~42.91m: 破砕帯 42.85~42.87m: 粘土混じり層状部(H) 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明黄褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さD)岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土層が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ50mm。	
126	42.87	42.91	Hc 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 径5~10mmの粘土化~硬さD)岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土層が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ50mm。	42.87	42.91	Hc 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。 径5~10mmの粘土化~硬さD)岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土層が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ50~30mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			42.87~42.91m: 破砕帯 42.87~42.91m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端41°、下端66° でいずれも波打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さD)岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mm白色軟質粘土層が分布している。全体に粘土混じり岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)。厚さ50~30mm。 やや硬質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
127	42.85	42.87	(破砕度区分欄)Hc-2	42.85	42.87	(破砕度区分欄)Hc			42.85~42.87m: (破砕度区分欄)Hc	
128	42.91	43.00	D 締った砂状状を呈する。岩組織と割れ目は消滅している。 白色粘土を脈状に伴う。	42.91	43.00	D 硬質な砂状状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅している。 白色粘土を脈状に伴う。			42.91~43.00m: D 硬質な砂状状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。	
129	43.00	43.17	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を網脈状に伴う。	43.00	43.17	CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を網脈状に伴う。			43.00~43.17m: CL 割れ目ぞいに砂状化する。白色粘土を網脈状に伴う。	
130	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部で砂割れ目を含むが密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	43.17	45.66	CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。 割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものも多いが劣化はない。 一部で砂割れ目を含むが密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。			43.17~45.66m: CM 硬さ「C」を主体とするが、一部に硬さ「B」の堅硬な柱状コアを含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟むが、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で砂割れ目を含むが、密度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	
131	-	45.66	CM	-	45.66	GM			-	
132	45.00	45.40	80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で切られている。	45.00	45.40	80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。切られていない。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			45.00~45.40m: 80~90° の高角度割れ目が連続。交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	

H27-B-3 45.00~51.64m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
133	45.00	46.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	45.00	46.00	(RQD欄)10 (最大コア長欄)7		45.00	46.00	(RQD欄)10 (最大コア長欄)7	
134	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部は5~20mmに片状化するが砂や粘土は挟まない。	45.41	45.50	割れ目が交差し、一部は5~20mmに片状化するが砂や粘土は挟まない。	・表視の適正化(挟む, mm)	45.41	45.50	45.41~45.50m:割れ目が交差し、一部は5~20mmに片状化するが、砂や粘土は挟まない。	
135	45.66	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以下では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。	45.66	46.14	CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以下では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に含んでいる。	・表視の適正化(扱い)	45.66	46.14	45.66~46.14m:CL 風化で割れ目ぞいに細片化~砂状化が拡大する。45.96m以下では硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質な白色粘土も脈状に挟む。	
136	46.14	47.58	CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	46.14	47.58	CM 堅硬であるが多くの長石が白濁化する。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	・記載の修正(挟在物⇒挟在物)	46.14	47.58	46.14~47.58m:CM 堅硬であるが、長石の多くは白濁化する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	
137	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	47.00	47.23	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受ける。	・表視の適正化(扱い)	47.00	47.23	47.00~47.23m:割れ目ぞいや岩芯の一部が弱くマンガン鉱染を受ける。	
138	47.24	47.29	上下端の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10m/mに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	47.24	47.29	上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~φ5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	・傾斜を追記した ・表視の適正化(厚度, mm)	47.24	47.29	47.24~47.29m:上端35°、下端23°の割れ目とほぼ同方向に砂~径5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」「B」と硬い。	
139	47.58	47.77	CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5m/m程度砂状~細片状化。	47.58	47.77	CL 35~45° 割れ目が多く、この割れ目ぞいに厚さ2~5mm程度砂状~細片状化。	・表視の適正化(扱い, mm)	47.58	47.77	47.58~47.77m:CL 35~45°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅2~5mm程度で砂状~細片状化する。	
140	47.58	47.77	(岩級区分欄)CL	47.58	47.77	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	47.58	47.77	(岩級区分欄)CMに含める	
141	47.77	48.61	CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目も含む。割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-		47.77	48.61	47.77~48.61m:CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目も含む。割れ目に挟在物は分布しない。	
142	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含んでいる。割れ目ぞいに厚さ10~30m/m程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	48.61	56.69	CL 硬さ「C」と硬さ「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含んでいる。割れ目ぞいに厚さ10~30mm程度まで風化による砂状化が進む部分も含む。	・表視の適正化(扱い, mm)	48.61	56.69	48.61~56.69m:CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目ぞいに幅10~30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。	
143	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15m/m、50.18m~35°厚さ30m/mで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	48.61	50.56	48.61~50.56mは硬さ「C」主体で、49.49m~40°厚さ15mm、50.18m~35°厚さ30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴っている。	・表視の適正化(mm)	48.61	50.56	48.61~50.56m:硬さ「C」主体で、49.49m~40°の幅15mm、50.18m~35°の幅30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴う。	
144	-	-	-	48.78	48.79	上端38°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	・砂状~細片状部は周囲と異なる状況であるため追記した	48.78	48.79	48.78~48.79m:上端38°、下端50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	
145	50.00	50.42	70°前後の微細な風化割れ目が数条波打ちながら連続する。これらの割れ目はハンマーの強打で分離するものもある。	-	-	-		50.00	50.42	50.00~50.42m:70°前後の風化した微細な割れ目が数条波打ちながら連続する。一部はハンマーの強打で分離する。	
146	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3m/mと薄く砂状部を挟んでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。	50.56	51.16	硬さ「D」主体で、30~50°割れ目が多く割れ目ぞいに厚さ1~3mmと薄く砂状部を挟んでいることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化している。	・表視の適正化(挟む, 扱い, mm, 軟質化)	50.56	51.16	50.56~51.16m:硬さ「D」主体で、30~50°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅1~3mmで薄く砂状化していることが多い。岩片自身も上下位に比べ軟質化する。	
147	-	-	-	51.16	51.45	51.16m、51.45mに35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	・褐色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した	51.16	51.45	51.16m、51.45mの35°、49°の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	
148	51.16	52.00	硬さ「C」主体。	-	-	-		51.16	52.00	51.16~52.00m:硬さ「C」主体。	
149	51.35	51.64	割れ目が交差し交差部を主体として砂状部が拡大している。また白色粘土も少量伴っている。	-	-	-		51.35	51.64	51.35~51.64m:割れ目が交差し、交差部では砂状部が拡大している。また、白色粘土も少量伴う。	

H27-B-3 52.79~58.89m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事を削除・変更・追記した理由			記事を削除・変更・追記した理由			記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		記事			記事				
		コア観察カードから正しく転記されているか?			通知変更した情報が正しく転記されているか?				
150	52.00	52.32	φ10~20mm硬さ「D」「C」岩片と岩片間の砕けた砂状部からなる。	52.00	52.32	φ10~20mm硬さ「D」「C」岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。	52.00	52.32	52.00~52.32m:径10~20mmの硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の硬質な砂状部からなる。
151	52.32	52.75	長石の白濁化が多いが硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含むが一部では密着度の低い割れ目も含む。	-	-	-	52.32	52.75	52.32~52.75m:白濁化した長石が多いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ「B」も含む。一部では密着度の低い割れ目も含む。
152	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」も残留。	52.75	53.10	岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」も残留。	52.75	53.10	52.75~53.10m:岩片自身も硬さ「D」と軟質化する。一部で硬さ「C」が残留する。
153	53.10	55.82	密着度の低い割れ目が多く、一部ですでに開口化している。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。色調が「橙赤」を帯びるようになる。	-	-	-	53.10	55.82	53.10~55.82m:密着度の低い割れ目が多く、一部で開口化する。割れ目の一部は砂状化し、白色粘土を伴うことが多い。橙赤を帯びる。
154	53.40	53.60	硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。	53.40	53.60	硬さ「B」に近い。また割れ目の挟在物も殆んど分布しない。	53.40	53.60	53.40~53.60m:硬さ「B」に近い。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
155	-	-	-	53.79	53.81	上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状~縞片状を呈する。	53.79	53.81	53.79~53.81m:上端23°、下端39°の割れ目の間が砂状~縞片状を呈する。
156	53.85	54.31	割れ目挟在物少ない。	53.85	54.31	挟在物を伴う割れ目は少ない。	53.85	54.31	53.85~54.31m:挟在物を伴う割れ目は少ない。
157	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	54.35	54.59	割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	54.35	54.59	54.35~54.59m:割れ目ぞいや岩芯の一部が軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。
158	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土はさむ割れ目が多い。	55.08	55.55	割れ目ぞい砂状化が進み砂や粘土を挟む割れ目が多い。	55.08	55.55	55.08~55.55m:割れ目ぞいに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。
159	55.08	55.08	25°厚さ5~10mm/mの淡黄色粘土はさむ。粘土直下10mm厚さ10mm/m砂状部伴う。	55.08	55.08	25°厚さ1mmの淡黄色粘土挟む。粘土直下10mm厚さ10mm/m砂状部伴う。	55.08	55.08	55.08m:25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。
160	55.82	56.69	割れ目に挟在物が分布しないことが多い。	55.82	56.69	挟在物を伴わない割れ目が多い。	55.82	56.69	55.82~56.69m:挟在物を伴わない割れ目が多い。
161	56.00	56.30	73~90°で湾曲して伸びる高角度割れ目を境として、下半分側は砂状~岩片状を呈する。	56.00	56.30	73~90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分側は砂状~岩片状を呈する。	56.00	56.30	56.00~56.30m:73~90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分側は砂状~岩片状を呈する。
162	56.69	56.72	破砕帯(主せん断面56.72m)	56.69	56.72	破砕部(最新活動面56.72m)	56.69	56.72	●56.69~56.72m:破砕部 56.69~56.72m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。 主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y8/1)。厚さ20mm。 傾斜31°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。
163	56.69	56.72	上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3~10mm硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。「砂・粘土混じり岩片状」。 主せん断面近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布。色調は淡黄(2.5Y7/3)~黄灰(2.5Y8/1)。厚さ20mm。	56.69	56.72	粘土分を基質に多く含むため破砕部内物質の各片を変更した。種数、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、He-1の粘土に変更した。 表現の適正化(厚さ、mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)	56.69	56.72	●56.69~56.72m:破砕部 56.69~56.72m:粘土混じり岩片状部(Hg) 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHe-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。淡黄~黄灰色を呈する。幅20mm。 56.72m:粘土状部(He-1) 傾斜31°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。
164	56.72	56.72	He-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm	56.72	56.72	He-1 31°で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	56.72	56.72	●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の統一(ガウジ~He-1に含んで表現) 表現の適正化(mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)
165	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。	56.72	57.29	56.72~57.29m:D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、一部で砂礫状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。
166	56.84	57.02	マンガン鉱染により黒褐色化。	-	-	-	56.84	57.02	56.84~56.97m、57.00~57.02m:マンガン鉱染により黒褐色化する。
167	57.29	58.89	CL 40~50°割れ目主体であるが、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目挟在物が多い。58.51m以深では斑状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。	-	-	-	57.29	58.89	57.29~58.89m:CL 40~50°の割れ目が主体で、これらに斜交するものも多い割れ目密集部。砂を主体とする割れ目の挟在物が多い。58.51m以深は斑状~脈状のマンガン鉱染部が点在する。

H27-B-3 58.68~60.00m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事							
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事
		記事	記事			記事	記事			記事	記事			記事	記事
		コア観察カードから正しく転記されているか?	コア観察カードから正しく転記されているか?			追加変更した情報が正しく転記されているか?	追加変更した情報が正しく転記されているか?			記事を削除・変更・追記した理由	記事を削除・変更・追記した理由			適定した記事内容	適定した記事内容
168	58.68	58.82	10° 幅1~3m/m, 58.82m~45° 幅7m/mの石英脈分布。	58.68	58.82	10° 幅1~3mm, 58.82m~45° 幅7mmの石英脈分布。	10° 幅1~3mm, 58.82m~45° 幅7mmの石英脈分布。	58.68	58.82	58.68m~10° で幅1~3mm, 58.82m~45° で幅7mmの石英脈が分布する。		58.68	58.82		
169	58.89	58.98	(岩級区分)D	58.89	58.98	(岩級区分)CL	(岩級区分)CL	58.89	58.98	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。		58.89	58.98	(岩級区分)CLに含める	
170	58.89	58.98	破砕帯(主せん断面・58.98m)	58.89	58.98	破砕部(最新活動面・58.98m)	破砕部(最新活動面・58.98m)	58.89	58.98	用種の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一		58.89	58.98	●58.89~58.98m:破砕部 58.89~58.94m:粘土混じり岩片状部(H) 上端20° で直線的に、下端25° で波打って連続。20~30° とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐色色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m:粘土混じり礫状部(H) 傾斜25° で上下端ともに波打って連続。径2~4mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片からなる、やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.98m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜25° で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒、硬質岩片を5~10%含む。軟質。オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。	
171	58.89	58.94	Hj 上端20° で直線的に、下端25° で波打って連続。20~30° とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。色調は褐色(10YR4/1)。厚さ40mm/m。	58.89	58.94	Hj 上端20° で直線的に、下端25° で波打って連続。20~30° とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。色調は褐色(10YR4/1)。厚さ40mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hj 上端20° で直線的に、下端25° で波打って連続。20~30° とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。硬さ「E」主体の「粘土混じり岩片状」呈する。色調は褐色(10YR4/1)。厚さ40mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	58.89	58.94	連続性・直線性が良いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の適正化(傾斜、mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)		58.89	58.98	●58.89~58.98m:破砕部 58.89~58.94m:粘土混じり岩片状部(H) 上端20° で直線的に、下端25° で波打って連続。20~30° とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmに細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。褐色色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m:粘土混じり礫状部(H) 傾斜25° で上下端ともに波打って連続。径2~4mmの石英粒、径5mmの硬さ「D」岩片からなる、やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.98m:硬混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜25° で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒、硬質岩片を5~10%含む。軟質。オリーブ色帯びる灰白色を呈する。幅15mm。	
172	58.94	58.96	Hb 25° で上下端ともに波打って連続。径2~4mm/m石英粒、径5mm硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「硬質粘土状」呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ15m/m。	58.94	58.96	Hb 25° で上下端ともに波打って連続。径2~4mm石英粒、径5mm硬さ「D」岩片からなる20~30%含む「粘土混じり礫状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ15mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hb 25° で上下端ともに波打って連続。径2~4mm石英粒、径5mm硬さ「D」岩片からなる20~30%含む「粘土混じり礫状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ15mm。 やや硬質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	58.94	58.96	原主体であるため破砕部内物質の名称及び破砕度区分を変更した。 上記の変更に伴い、コアに合わせて「20~30%の岩片を含む」記載を「岩片からなる」に変更した。 細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の統一(半固結状→やや硬質な) 表現の適正化(mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)		58.94	58.96		
173	58.96	58.98	Hc-2 25° で上下端ともに波打って連続。径2~3mm/m石英粒、硬質岩片を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白(7.5Y8/2)。厚さ15m/m。	58.96	58.98	Hc-2 25° で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mm石英粒、硬質岩片を5~10%含む硬混じり軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白色(7.5Y8/2)。厚さ15mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	Hc-2 25° で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mm石英粒、硬質岩片を5~10%含む硬混じり軟質粘土(ガウジ)。色調はオリーブ色帯びる灰白色(7.5Y8/2)。厚さ15mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	58.96	58.98	連続性・直線性が良いため、下端境界の連続性・直線性を変更した。 際を含むため破砕部内物質の名称を変更した。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 表現の統一(ガウジ→Hc-2)も含んで表現 表現の適正化(帯びる、mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)		58.96	58.98		
174	58.94	58.96	(破砕度区分)Hb	58.94	58.96	(破砕度区分)Hb	(破砕度区分)Hb	58.94	58.96	上記の変更に伴い、変更した		58.94	58.96	(破砕度区分)Hb	
175	58.98	59.09	CL 59.50m以下では粘土を挟むことが多い。	58.89	59.09	CL 59.50m以下では粘土を挟むことが多い。	CL 59.50m以下では粘土を挟むことが多い。	58.89	59.09	58.89~58.98mはD級であるが、区間長が50cm未満であり、周囲の岩級に含めたため、上端深度を変更した。 表現の適正化(挟む)		58.89	59.09	58.89~59.09m:CL 59.50m以下は粘土を挟むことが多い。	
176	59.69	59.75	(岩級区分)D	59.69	59.75	(岩級区分)CL	(岩級区分)CL	59.69	59.75	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。		59.69	59.75	(岩級区分)CLに含める	
177	59.69	59.75	破砕帯(主せん断面59.69m)	59.69	59.75	破砕部(最新活動面59.69m)	破砕部(最新活動面59.69m)	59.69	59.75	用種の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一		59.69	59.75	●59.69~59.75m:破砕部 59.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜52° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m:砂混じり岩片状部(H) 上端52°、下端37° でともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙褐色を呈する。幅40~60mm。	
178	59.69	59.69	Hc-1 52° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ1m/m。	59.69	59.69	Hc-1 52° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	Hc-1 52° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は黄褐色(10YR5/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。	59.69	59.69	原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の統一(mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)		59.69	59.75	●59.69~59.75m:破砕部 59.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜52° で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m:砂混じり岩片状部(H) 上端52°、下端37° でともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙褐色を呈する。幅40~60mm。	
179	59.69	59.75	Hj 上端52°、下端37° でともに直線的に連続。径5~20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈する。粘土は分布しない。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~60m/m。	59.69	59.75	Hj 上端52°、下端37° でともに直線的に連続。径5~20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈する。粘土は分布しない。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~60mm。 細粒部は局所的に分布する。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	Hj 上端52°、下端37° でともに直線的に連続。径5~20mm硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。「砂混じり岩片状」呈する。粘土は分布しない。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/3)。厚さ40~60mm。 細粒部は局所的に分布する。やや硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	59.69	59.75	連続性・直線性が良いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 表現の適正化(mm) 原記の修正(「色」の記載漏れ)		59.69	59.75		
180	59.75	60.00	CL 割れ目挟在物の分布は少ない。	59.75	60.00	CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	59.75	60.00	文章の適正化		59.75	60.00	59.75~60.00m:CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	

H27-B-3 60.00~65.19m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
181	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。割れ目の挟在物は少ない。各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.00	61.40	CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。各割れ目と岩芯の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。	60.00	61.40	60.00~61.40m:CM 密着度の低い割れ目やゆ着割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。	
182	-	-	-	61.18	61.23	上端30° 下端33° 割れ目の上下端は渡打っている。一部砂状化。マンガン鉱染が見られる。	61.18	61.23	61.18~61.23m:上端30° 下端33° の割れ目の上下端は渡打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。	
183	61.40	61.67	(岩級区分欄)CL	61.40	61.67	(岩級区分欄)CM	61.40	61.67	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)CMに含める	
184	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	61.40	61.67	61.40~61.67m:CL 割れ目ぞいに砂状化が進む。	
185	61.47	61.51	マンガン鉱染により黒褐色化する。	-	-	-	61.47	61.51	61.47~61.51m:マンガン鉱染により黒褐色化する。	
186	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目挟在物はないが軽微なマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	61.67	62.23	61.67~62.23m:CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	
187	62.23	64.25	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土層などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土層などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分も分布する。	62.23	64.52	62.23~64.52m:CL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土層などの挟在物を挟むことが多い。硬さ「D」の区間では割れ目ぞいに砂状化が拡大する部分もある。	
188	62.82	62.93	62.82~62.93mはφ5~20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土層も伴う。	62.82	62.93	62.82~62.93mはφ5~20mm硬さD岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土層も伴う。	62.82	62.93	62.82~62.93m:径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂礫状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土層も伴う。	
189	63.03	63.03	30° 割れ目ぞいに厚さ5~15mm/mがマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	30° 割れ目ぞいに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	63.03	63.03	63.03m:30° の割れ目ぞいに幅約10mmの淡褐色粘土、幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。	
190	63.04	64.17	硬さ「C」区間では硬さ「B」も多く含む	-	-	-	63.04	64.17	63.04~64.17m:硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。	
191	63.60	63.70	コアチューブ引上げ時に人為的に角礫状化したもの。	-	-	-	63.60	63.70	63.60~63.70m:コアチューブ引上げ時の擾乱により角礫状化している。	
192	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭(消えかかったもの)なことも多い。原岩組織は明瞭に残留している。	64.17	64.52	64.17~64.52m:割れ目ぞいに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明瞭に残留する。	
193	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目挟在物は少ない。一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目挟在物は少ない。一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け黒褐色化するが劣化は伴わない。	64.52	66.39	64.52~66.39m:CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目ぞいでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。	
194	-	-	-	64.66	64.66	63° の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	64.66	64.66	64.66m:63° の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	
195	-	-	-	64.78	64.84	上下端45° の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	64.78	64.84	64.78~64.84m:上下端45° の割れ目間及び周辺が明青灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	
196	65.19	65.19	38° 割れ目ぞい厚さ10mmで軟化進む。薄い砂状部を挟む。	65.19	65.19	38° 割れ目ぞい厚さ10mmで軟質化進む。薄い砂状部を挟む。	65.19	65.19	65.19m:38° の割れ目ぞいに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。	

H27-B-3 65.34~71.72m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
197	65.34	65.34	35° 割れ目ぞい厚さ25mmの石英質部で硬質、淡緑灰色緑泥石化、黒褐色マンガン化するが劣化は伴わない。	65.34	65.34	35° 割れ目ぞい厚さ25mmの硬質な珪質部を伴う、緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが劣化は伴わない。	65.34	65.34	65.34m: 35° の割れ目ぞいに幅25mmの硬質な珪質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが、劣化は伴わない。	
198	65.59	65.59	35° 割れ目ぞい厚さ20mmが砂状化～φ5mm細片化。	65.59	65.59	35° 割れ目ぞい厚さ20mmが砂状化～φ5mm細片化。	65.59	65.59	65.59m: 35° の割れ目ぞいに幅20mmが砂状化～径5mmの細片化する。	
199	65.61	65.61	35° 割れ目を境として深は堅硬化する。	65.61	65.61	35° 割れ目を境として深は堅硬となる。	65.61	65.61	65.61m: 35° の割れ目を境として深は堅硬となる。	
200	66.09	66.09	55° 割れ目ぞい砂状化部はさむ。マンガン鉱染も伴っている。	66.09	66.09	55° 割れ目ぞい砂状化部挟む。マンガン鉱染も伴っている。	66.09	66.09	66.09m: 55° の割れ目ぞいに砂状化部を挟む。マンガン鉱染も伴う。	
201	66.37	66.40	割れ目ぞい厚さ30～40mm淡緑灰色の緑泥石化。砂～粘土部など劣化は伴わない。	66.37	66.40	割れ目ぞい厚さ30～40mm淡緑灰色の緑泥石化。砂～粘土部など劣化は伴わない。	66.37	66.40	66.37～66.40m: 割れ目ぞいに幅30～40mmが淡緑灰色の緑泥石化する。砂～粘土部など劣化は伴わない。	
202	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	66.39	68.06	CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	66.39	68.06	66.39～68.06m: CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目ぞいの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多くハンマーの軽打で分離・細片化することが多い。	
203	-	-	-	66.80	66.80	51° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。	66.80	66.80	66.80m: 51° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。	
204	-	-	-	66.98	66.98	63° の割れ目に幅2～3mmの灰白色粘土を挟む。	66.98	66.98	66.98m: 63° の割れ目に幅2～3mmの灰白色粘土を挟む。	
205	67.12	67.12	55° 割れ目ぞい厚さ5mmで白色シルト状部をはさむ。割れ目面は褐色化する。	67.12	67.12	55° 割れ目ぞい厚さ5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	67.12	67.12	67.12m: 55° の割れ目ぞいに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。	
206	67.30	67.70	60～90° の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2～3mm砂状化する。	67.30	67.70	60～90° の高角度割れ目に囲まれてφ10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は厚さ2～3mm砂状化する。	67.30	67.70	67.30～67.70m: 60～90° の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2～3mmで砂状化する。	
207	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10～20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。	68.06	68.93	D 強風化で砂状化が拡大。φ10～20mm硬さ「D」「C」の残留岩片とともに「砂礫状」を呈する。	68.06	68.93	68.06～68.93m: D 強風化で砂状化が拡大。径10～20mmの硬さ「D」「C」の残留岩片とともに砂礫状を呈する。	
208	68.06	68.93	(風化欄) c ランク	68.06	68.93	(風化欄) δ ランク	68.06	68.93	(風化欄) δ ランク	
209	68.40	68.60	68.40～68.60mは硬さ「D」の岩片からなる。	-	-	-	68.40	68.60	68.40～68.60m: 硬さ「D」の岩片からなる。	
210	68.69	68.69	30° 割れ目ぞい厚さ15mmが硬質な淡緑灰色を呈する緑泥石化物。上端側に石英も伴う。	68.69	68.69	30° 割れ目ぞい厚さ15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化物が見られる。上端側に石英も伴う。	68.69	68.69	68.69m: 30° の割れ目ぞいに幅15mmで淡緑灰色を呈する硬質な緑泥石化物が見られる。上端側に石英も伴う。	
211	68.93	70.10	CL 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂をはさむことが多い。一部では厚さ10mm程度で砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	68.93	70.10	CL 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂を挟むことが多い。一部では厚さ10mm程度で砂状化が拡大している。厚さ1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体。	68.93	70.10	68.93～70.10m: CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目ぞいに砂状化した砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度で砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。砂状化が進む部分では硬さ「D」主体である。	
212	-	-	-	69.22	69.22	45° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。	69.22	69.22	69.22m: 45° の割れ目に幅1～2mmの褐色粘土を挟む。	
213	69.70	-	69.70m以深では一部の割れ目と岩芯で軽微なマンガン鉱染を受けている。	-	-	-	69.70	-	69.70m以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鉱染を受ける。	
214	70.10	71.72	(変質欄) 4ランク	70.10	71.72	(変質欄) 3ランク	70.10	71.72	(変質欄) 3ランク	

H27-B-3 70.10~75.56m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
215	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、原岩組織と割れ目は残存している。 所々に硬さ「D」の岩片が残存し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	D 風化と変質で著しく軟化するが、原岩組織と割れ目は残存している。 所々に硬さ「D」の岩片が残存し、71.30m以深で岩片量多くなる。	70.10	71.72	70.10~71.72m:D 風化と変質で著しく軟化するが、原岩組織と割れ目は残存する。所々に硬さ「D」の岩片が残存し、71.30m以深は岩片量が多くなる。	
216	70.17	70.20	25°で波打ってマンガンが脈状に分布。黒色呈する。下盤側厚さ10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	25°で波打ってマンガンが脈状に分布。黒色呈する。下盤側厚さ10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	70.17	70.20	70.17~70.20m:25°で波打ってマンガンが脈状に分布し、黒色を呈する。下盤側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。	
217	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 厚1mm/m白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	70.20	71.30	粘土化ないし砂状化部主体。 幅1mm白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	70.20	71.30	70.20~71.30m:粘土化ないし砂状化部主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	
218	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的にφ1~2mm石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	71.30	-	71.30m以深は硬さ「D」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなる。部分的に径~2mmの石英がマンガン鉱染により黒褐色化する。	
219	71.72	72.76	CL φ10~20mm 硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	CL φ10~20mm 硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。 全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	71.72	72.65	71.72~72.65m:CL 径10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。	
220	72.12	72.17	30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	30°割れ目では面ぞいに褐色化し、砂状化も拡大している。	72.12	72.17	72.12~72.17m:30°の割れ目ぞいに褐色化し、砂状化も拡大する。	
221	72.65	73.38	D	-	-	-	72.65	73.38	72.65~73.38m:D	
222	72.93	73.11	変質で原岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残存している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残存する。	72.93	73.11	変質で原岩組織と割れ目は消滅し細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残存している。また、硬さ「D」の岩片も一部で残存する。	72.93	73.11	72.93~73.11m:変質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂礫状を呈する。上記区間以外は原岩組織と割れ目の一部は残存する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残存する。	
223	72.93	73.11	(変質帯)4ランク	72.93	73.11	(変質帯)3ランク	72.93	73.11	(変質帯)3ランク	
224	73.18	73.19	20°割れ目ぞいに厚さ10~15mmでマンガンが脈状に分布。	73.18	73.19	20°割れ目ぞいに厚さ10~15mmでマンガンが脈状に分布。	73.18	73.19	73.18~73.19m:20°の割れ目ぞいに幅10~15mmでマンガンが脈状に分布する。	
225	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目がφ10mm前後で密に分布する。	73.38	76.23	CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが全体的には軟化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目がφ10mm前後で密に分布する。	73.38	76.23	73.38~76.23m:CL 一部で硬さ「C」の岩片も含むが、全体的には軟化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 密着度の低い割れ目やゆる割れ目がφ10mm前後で密に分布する。	
226	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	73.38	73.58	硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な厚さ1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	73.38	73.58	73.38~73.58m:硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	
227	74.04	74.04	25°割れ目ぞいに幅約20mm軟化進む。	74.04	74.04	25°割れ目ぞいに幅約20mm軟化進む。	74.04	74.04	74.04m:25°の割れ目ぞいに幅約20mmで軟化が進む。	
228	74.29	74.48	20~30°割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染を伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	20~30°割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染を伴う。また細かい密着度の低い割れ目も密集する。	74.29	74.48	74.29~74.48m:20~30°の割れ目ぞいに褐色化とマンガン鉱染を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。	
229	74.72	74.84	硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	-	-	-	74.72	74.84	74.72~74.84m:硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。	
230	-	-	-	74.90	74.90	33°割れ目ぞいに幅10mm程度砂状化。	74.90	74.90	74.90m:33°の割れ目ぞいに幅10mm程度が砂状化する。	
231	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2mm/mの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	75.05	75.56	割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土が脈状にはさまれる。	75.05	75.56	75.05~75.56m:割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。	

H27-B-3 75.46~76.89m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			
記事		記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由		記事を削除・変更・追記した理由		記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
232	75.46	75.46	0' 幅3~5m/mの建質部が斜交する割れ目を切っ て連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。	75.46	75.46	0' 幅3~5mmの建質部が斜交する割れ目を止めて 連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。 建質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認めら れない。建質部周辺の岩盤には原岩組織が認めら れ、建質部と系統的な割れ目も存在しない。	75.46	75.46	75.46m: 0' で幅3~5mmの建質部が斜交する割れ目を止めて連続する。 粘土化などの劣化は伴わない。建質部の上端・下端の割れ目に細粒部は 認められない。建質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、建質部と系 統的な割れ目も存在しない。		
233	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱され10mm前後の礫 状コア化している。	75.80	75.87	コアチューブ引上げ時に乱され10mm前後の礫状 コア化している。	75.80	75.87	75.80~75.87m: コアチューブ引上げ時の擾乱により径10mm前後の礫状 コアを呈する。		
234	76.11	76.23	10~20' の低角度割れ目が多い。一部で灰白色 粘土(幅0.5m/m)をはさむ。	76.11	76.23	10~20' の低角度割れ目が多い。一部で灰白色 粘土(幅0.5m/m)を挟む。	76.11	76.23	76.11~76.23m: 10~20' の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mの灰 白色粘土を挟む。		
235	76.23	76.59	D	-	-	-	76.23	76.59	76.23~76.59m: D		
236	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5m/mに細片化する。粘土化も 伴う。	-	76.41	76.41m以浅はφ3~5mmに細片化する。粘土化も 伴う。	-	76.41	76.41m以浅は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。		
237	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。旧割 れ目部にそってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅している。割れ 目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。	76.41	-	76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑 点状に分布する。		
238	76.23	76.59	(風化欄) δランク	76.23	76.59	(風化欄) δランク	76.23	76.59	(風化欄) δランク		
239	76.59	76.89	破砕帯(主せん断面76.59m)	76.59	76.89	破砕帯(最新活動面76.59m)	76.59	76.89	●76.59~76.89m: 破砕部 76.59m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜47' で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか (5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質硬状部(Hb) 上端47' で、下端55' でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化 した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土土とほぼ平行な細かい割れ目 が4条分布。灰白~にふい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」 ~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕 部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55'、33' のせん断面が分布 する。一部でマンガン鉱染を伴う。にふい橙~灰白色を呈する。		
240	76.59	76.59	Hc-1 47' で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒 をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色 調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒 化した岩片からなる組織は見えない。	76.59	76.59	Hc-1 47' で上下端ともに直線的に連続。φ1mm石英粒 をこくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色 調は明黄褐色(2.5Y6/6)。厚さ1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒 化した岩片からなる組織は見えない。	76.59	76.59	●76.59~76.89m: 破砕部 76.59m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜47' で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか (5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質硬状部(Hb) 上端47' で、下端55' でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化 した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土土とほぼ平行な細かい割れ目 が4条分布。灰白~にふい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」 ~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕 部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55'、33' のせん断面が分布 する。一部でマンガン鉱染を伴う。にふい橙~灰白色を呈する。		
241	76.59	76.65	Hb 上端48' で、下端55' でともに直線的に連続。マン ガン鉱染で黒色化したφ1~2m/m石英粒。φ3~ 10m/m粘土土~硬さ「D」岩片を計20~30%含む軟 質な「粘土質硬状」を呈する。上端側のHc-1の粘土 とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。 色調は灰白(7.5YR8/1)~にふい橙(7.5YR7/3)。 厚さ40~50m/m。	76.59	76.65	Hb 上端47' で、下端55' でともに直線的に連続。マン ガン鉱染で黒色化したφ1~2mm石英粒。φ3~ 10m/m粘土土~硬さ「D」岩片を計20~30%含む軟 質な「粘土質硬状」を呈する。上端側のHc-1の粘土 とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布。 色調は灰白(7.5YR8/1)~にふい橙 (7.5YR7/3)。厚さ40~50mm。やや軟質で、含ま れる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認めら れる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる 組織が見られる。	76.59	76.65	●76.59~76.89m: 破砕部 76.59m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜47' で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか (5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質硬状部(Hb) 上端47' で、下端55' でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化 した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土土とほぼ平行な細かい割れ目 が4条分布。灰白~にふい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」 ~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕 部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55'、33' のせん断面が分布 する。一部でマンガン鉱染を伴う。にふい橙~灰白色を呈する。		
242	76.65	76.89	Hi 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。φ3~ 10m/m硬さ「D」~粘土化岩片と岩片間の粘土土 部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに主せん断面と平行方向に各々 55'、33' のせん断面(s _g)が分布。一部でマンガン 鉱染を伴う。 色調はにふい橙(7.5YR7/4)~灰白(7.5YR8/2)。 厚さ240m/m(コア長)。	76.65	76.89	Hi 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。φ3~ 10m/m硬さ「D」~粘土化岩片と岩片間の粘土土 部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。 76.70mと76.78mに破砕部上端側のHc-1の粘土と 平行方向に各々55'、33' のせん断面(s _g)が分 布。一部でマンガン鉱染を伴う。 色調はにふい橙(7.5YR7/4)~灰白色 (7.5YR8/2)。厚さ240m/m(コア長)~ やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原 岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化 した岩片からなる組織が見られる。	76.65	76.89	●76.59~76.89m: 破砕部 76.59m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜47' で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか (5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質硬状部(Hb) 上端47' で、下端55' でともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化 した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土土とほぼ平行な細かい割れ目 が4条分布。灰白~にふい橙褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端55' で、下端37' でともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」 ~粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕 部上端側のHc-1の粘土と平行方向に各々55'、33' のせん断面が分布 する。一部でマンガン鉱染を伴う。にふい橙~灰白色を呈する。		

H27-B-3 76.89~85.03m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
243	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	76.89	79.15	CL 硬さ「D」岩片主体であるが部分的に硬さ「C」も含む。 割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進んでいる。 割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	76.89	79.15	76.89~79.15m:CL 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目ぞいに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕帯直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかかっているものもある。 70~80°の高角度系を主体に、密着度が低い割れ目も多い。	-
244	77.58	77.65	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	φ10mm前後の大型の石英斑晶が点在。	77.58	77.65	77.58~77.65m:径10mm前後の大型の石英斑晶が点在。	-
245	77.71	77.77	φ5~10mm/細片状~締った砂状を呈する。	77.71	77.77	φ5~10mm細片状~硬質な砂状を呈する。	77.71	77.77	77.71~77.77m:径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。	-
246	77.79	77.85	硬さ「C」と硬化する。	-	-	-	77.79	77.85	77.79~77.85m:硬さ「C」と硬化する。	-
247	78.05	-	78.05m以深では白色粘土細脈の分布が多くなる。	-	-	-	78.05	-	78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。	-
248	79.15	87.18	(変質欄)4ランク	79.15	85.03	(変質欄)3ランク	79.15	85.03	(変質欄)3ランク	-
249	79.15	85.03	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。また全体的に岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。 一部でφ5~20mm程度の硬さ「D」岩片が残留。また全体的に原岩組織と割れ目の一部は残留する。 割れ目は10~30°と低角度系が主体。	79.15	84.89	79.15~85.03m:D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。	-
250	-	-	-	79.37	79.49	上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状。	79.37	79.49	79.37~79.49m:上端42°、下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	-
251	80.14	80.31	幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	80.24	80.31	80.24~80.31m:幅1mm、長さ10~20mmの細脈状にマンガンが密集する。	-
252	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-	-	-	80.36	-	80.36m以深は硬さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部からなる。	-
253	80.76	81.68	割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	80.76	81.68	80.76~81.68m:割れ目や岩芯の一部がマンガン鉱染を受ける。	-
254	81.70	82.40	岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	-	-	-	81.70	82.40	81.70~82.40m:岩片間の基質の一部が風化・褐色化が進む。	-
255	81.90	84.40	φ1~2mm/表面がマンガン化した石英粒(石英斑晶)が黒色で点在する。	81.90	84.40	φ1~2mmの表面がマンガンで黒色化した石英粒が点在する。	81.90	84.40	81.90~84.40m:表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英粒が点在する。	-
256	83.30	83.74	83.30~83.74mには硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。	-	-	-	83.30	83.74	83.30~83.74m:硬さ「C」の硬質岩片が多く残留する。	-
257	83.30	83.50	岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	-	-	-	83.30	83.50	83.30~83.50m:岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	-
258	84.06	84.54	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	10~20°割れ目ぞいに風化で褐色化する。 また、硬さ「D」岩片が主体。	84.06	84.55	84.06~84.55m:10~20°の割れ目ぞいに風化で褐色化する。硬さ「D」の岩片が主体。	-
259	84.54	84.71	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅している。	84.55	84.89	砂状化が拡大している。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅している。	84.55	84.89	84.55~84.89m:砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。	-
260	84.89	85.03	(割れ目状態欄)φランク (コアの形状欄)Wランク (コアの硬さ欄)Eランク (岩級区分欄)D	84.89	85.03	(割れ目状態欄)φランク (コアの形状欄)Wランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	84.89	85.03	(割れ目状態欄)φランク (コアの形状欄)Wランク (コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	-

H27-B-3 84.89~90.14m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
261	85.03	85.61	CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	CL 一部に硬さ「C」岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	84.89	85.61	84.89~85.61m:CL 一部に硬さ「C」の岩片も含むが、割れ目ぞいに砂状化する。	-
262	85.36	85.60	割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	高角度割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。	85.36	85.60	85.36~85.60m:高角度割れ目ぞいの砂状化が進む。	-
263	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。 φ0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	85.28	85.32	85.28~85.32m:緑泥石化し、淡緑灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。	-
264	85.61	91.35	D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟質化が著しい。	85.61	91.35	D 硬さ「D」「C」岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり全体として軟質化が著しい。	85.61	91.35	85.61~91.35m:D 硬さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化～砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。	-
265	85.61	87.18	(変更欄)4ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク	85.61	87.18	(変更欄)3ランク	-
266	-	-	-	85.70	85.70	15°の割れ目ぞいが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	85.70	85.70	85.70m:15°の割れ目ぞいが褐色を呈し、マンガン鉱染が見られる。	-
267	86.50	86.78	40~50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	40~50°割れ目ぞいに硬さ「C」「D」岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で更に細片化するものが多い。	86.50	86.78	86.50~86.78m:40~50°の割れ目ぞいに硬さ「C」「D」の岩片が残留する。岩片中には細かい割れ目が多く、ハンマーの打撃で細片化するものが多い。	-
268	87.18	91.35	強風化による砂状化が拡大し残留する硬さ「C」「D」岩片とともに「砂礫状」を呈する。 このうち、87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-	-	-	87.18	91.35	87.18~91.35m:強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂礫状を呈する。87.18~87.52mの基質部はスライムである。	-
269	87.18	87.52	(地質名欄)Go	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	87.18	87.52	(地質名欄)コア欠如	-
270	87.18	87.52	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)V1ランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)εランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)D	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	87.18	87.52	(割れ目状態欄)空欄 (コアの形状欄)空欄 (コアの硬さ欄)空欄 (風化欄)空欄 (変質欄)空欄 (岩級区分欄)空欄	-
271	87.18	89.86	(色調欄)10YR6/3にぶい黄橙	87.18	89.86	(色調欄)7.5YR7/2明褐灰	87.18	89.86	(色調欄)明褐灰	-
272	87.52	91.35	(風化欄)εランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク	87.52	91.35	(風化欄)δランク	-
273	88.18	89.00	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.05	残留している岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	88.18	89.05	88.18~89.05m:残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	-
274	89.00	89.05	(割れ目状態欄)δランク (コアの形状欄)V1ランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)V1ランク	89.00	89.05	(割れ目状態欄)εランク (コアの形状欄)V1ランク	-
275	89.00	90.14	89.00~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部に掘進時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05~90.14mは礫に相当する岩片のみ採取され、基質に相当する砂状～粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	89.05	90.14	89.05~90.14m:岩片のみ採取され、基質の砂状～粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	-

H27-B-3 90.14~91.59m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
276	90.15	90.55	揃った砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	90.14	90.55	硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。			90.14	90.55	90.14~90.55m: 硬質な砂状部と硬さ「C」主体の硬質岩片からなる砂礫状。一部で割れ目が残留している。	
277	90.55	90.85	90.55~90.85mはスライム。	-	-	-			90.55	90.85	90.55~90.85m: スライム。	
278	90.55	90.85	(地質名欄) Gp	90.55	90.85	(地質名欄) コア欠如			90.55	90.85	(地質名欄) コア欠如	
279	90.55	90.85	(割れ目状懸濁) Fランク (コアの形状欄) VIランク (コアの硬さ欄) Eランク (風化欄) Gランク (変質欄) Gランク (岩級区分欄) D	90.55	90.85	(割れ目状懸濁) 空欄 (コアの形状欄) 空欄 (コアの硬さ欄) 空欄 (風化欄) 空欄 (変質欄) 空欄 (岩級区分欄) 空欄			90.55	90.85	(割れ目状懸濁) 空欄 (コアの形状欄) 空欄 (コアの硬さ欄) 空欄 (風化欄) 空欄 (変質欄) 空欄 (岩級区分欄) 空欄	
280	90.85	91.00	硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	-	-	-			90.85	91.00	90.85~91.00m: 硬質岩片のみ採取され、基質の砂状部は掘進時に流失したものと推定される。	
281	91.35	91.54	破砕帯(主せん断面91.44m)	91.35	91.54	破砕部(最新活動面は91.35mか91.44mの可能性がある)			91.35	91.54	●91.35~91.54m: 破砕部 91.35~91.43m: 粘土質礫状部(Hb) 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。径2~3mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~砂状化した岩片を30%程度含む。軟質。灰白~にぶい黄褐色を呈する。幅80mm。 91.43~91.44m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜25"で上端は湾曲して、下端は波打って連続。径1mmの石英粒をごくわずか(5%以下)に含む。軟質。灰白色を呈する。幅7~10mm。 91.44~91.51m: 粘土質礫状部(Hb) 上端25"、下端18"でともに波打って連続。径5mm前後の硬さ「D」岩片を30%程度含む。少し風化してやや軟質である。淡黄褐色を呈する。幅30~80mm。 91.51~91.54m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化し、岩片間には軟質粘土が分布する。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/4)。厚さ20~25mm。軟質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
282	91.35	91.43	Hb 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。径2~3mm石英粒。径3~10mm粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ80m/m	91.35	91.43	Hb 上端36"で波打って、下端25"で湾曲して連続。径2~3mm石英粒。径3~10mm粘土化~砂状化岩片を30%程度含む軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は灰白(5Y8/1)~にぶい黄褐色(10YR7/2)。厚さ80mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			91.35	91.43	●硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ●細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ●表現の適正化(mm) ●表記の修正「色」の記載漏れ	
283	91.43	91.44	Hc-1 25"で上端は湾曲して下端は波打って連続。径1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(5Y8/1)。厚さ7~10m/m	91.43	91.44	Hc-1 25"で上端は湾曲して下端は波打って連続。径1mm石英粒をごくわずか(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(5Y8/1)。厚さ7~10mm。 変質を強く受けて、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。			91.35	91.54	●表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含んで表現 ●表現の適正化(mm) ●表記の修正「色」の記載漏れ、「に」の記載漏れ ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
284	91.44	91.51	Hb 上端25"、下端18"でともに波打って連続。径5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したやや軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は淡黄褐色(10YR8/3)。厚さ30~60m/m	91.44	91.51	Hb 上端25"、下端18"でともに波打って連続。径5mm前後の硬さD岩片を30%程度含む少し風化したやや軟質な「粘土質礫状」を呈する。色調は淡黄褐色(10YR8/3)。厚さ30~60mm 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			91.44	91.51	●硬主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ●上位に比べて粘土化が進んでいないため硬軟を変更した ●細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ●表現の適正化(mm) ●表記の修正「色」の記載漏れ	
285	91.51	91.54	Hi 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化し、岩片間には軟質粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/4)。厚さ20~25m/m	91.51	91.54	Hi 上端18"で波打って、下端20"で直線的に連続。下端面とほぼ平行な20~30°割れ目とこれにほぼ直交する割れ目が多く、径5mm程度の硬さ「D」の岩片に細片化し、岩片間には軟質粘土が分布。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙褐色(7.5YR7/4)。厚さ20~25mm 軟質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			91.51	91.54	●硬軟。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ●表現の適正化(ほぼ、mm。軟弱⇒軟質) ●表記の修正「色」の記載漏れ	
286	91.54	93.05	D 径10mm前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以降では石英以外は砂状化する。	91.54	92.85	D 径10mm前後の硬さ「D」岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として軟化著しい。92.00m以降では石英以外は砂状化する。			91.54	92.85	●D級の下端深度の変更に伴い、変更した ●表現の適正化(mm。軟質化)	
287	-	-	-	91.54	91.59	上端20"、下端8"の割れ目間が強く変質し、淡黄色の砂礫状を呈する。			91.54	91.59	●幅広の変質した砂礫状部は閉鎖と異なる状態であるため追記した	

H27-B-3 91.59~98.02m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
-	-	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	-	-	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
288	-	-	91.59	91.67	上端8°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン鉱染により、全体が黒色化する。	珪化部は周囲と異なる状況であるため追記した。	91.59	91.67	91.59~91.67m:上端8°、下端32°の間は珪化部で硬質である。マンガン鉱染により、全体が黒色化する。		
289	91.54	92.85	(風化層)εランク	91.54	92.85	(風化層)δランク	周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδランクに変更した。	91.54	92.85	(風化層)δランク	
290	-	-	-	92.71	92.85	上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。	網目状の灰白色粘土は周囲と異なる状況であるため追記した。	92.71	92.85	92.71~92.85m:上端68°、下端40°の間は灰白色粘土が網目状に分布する。	
291	92.85	93.25	(割れ目状懸濁)δランク (コアの形状層)Wランク (コアの硬さ層)Eランク (風化層)εランク (岩級区分層)D	92.85	93.25	(割れ目状懸濁)δランク (コアの形状層)Wランク (コアの硬さ層)Dランク (風化層)δランク (岩級区分層)CL	コアに合わせて割れ目状懸濁、コアの形状、コアの硬さ、風化のランクを変更した。 上記の変更に伴い、岩級を変更した。	92.85	93.25	(割れ目状懸濁)δランク (コアの形状層)Wランク (コアの硬さ層)Dランク (風化層)δランク (岩級区分層)CL	
292	93.05	93.66	CL 70~80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに厚1~3mm/m程度の砂状部~粘土化部をはさむ。	92.85	93.66	CL 70~80° 割れ目が多く、割れ目ぞいに幅1~3mm程度の砂状部~粘土化部を挟む。	上記の変更に伴い、CL級の上端深度を変更した(なお、93.05mは93.25mの編記) 表現の適正化(治い、厚=幅、mm、挟む)	92.85	93.66	92.85~93.66m:CL 70~80°の割れ目が多く、割れ目ぞいに幅1~3mm程度の砂状部~粘土化部を挟む。	
293	93.66	93.86	D 上下端80° 割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	-	-	-		93.66	93.86	93.66~93.86m:D 上下端80°の割れ目に囲まれ粘土化と砂状化が著しい。	
294	93.66	93.86	(風化層)εランク (変質層)δランク (岩級区分層)D	93.66	93.86	(風化層)δランク (変質層)δランク (岩級区分層)CL	周囲と同様の風化、変質の程度であるため風化、変質のランクを変更した。 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた。	93.66	93.86	(風化層)δランク (変質層)δランク (岩級区分層)CLに含める	
295	93.86	99.50	CL 50~70°とこれに直交する40~50° 割れ目が多い。94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。	-	-	-		93.86	99.50	93.86~99.50m:CL 50~70°とこれに直交する40~50°の割れ目が多い。94.43m以浅は硬さ「D」が、94.43m以深は硬さ「C」が主体。	
296	94.25	94.31	10~20° 割れ目に囲まれ「砂礫状」を量する。	-	-	-		94.25	94.31	94.25~94.31m:10~20°の割れ目に囲まれ砂礫状を量する。	
297	94.25	94.31	(風化層)εランク	94.25	94.31	(風化層)δランク	周囲と同様の風化の程度であるため風化のランクをδに変更した。	94.25	94.31	(風化層)δランク	
298	94.43	-	94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10~20mm/m程度の間隔で交差するため小岩片化している。割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	94.43	-	94.43m以深では岩片自体は硬さ「B」相当のものも多く含むが割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため細片化している。割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	表現の適正化(mm、小岩片⇒細片化)	94.43	-	94.43m以深は岩片自体は硬さ「B」も多く含むが、割れ目が10~20mm程度の間隔で交差するため細片化する。割れ目の一部はマンガン鉱染を受ける。	
299	95.50	95.71	95.50~95.71mは割れ目から分離し、φ10mm前後の小岩片化している。	95.50	95.71	95.50~95.71mは割れ目から分離し、φ10mm前後に細片化している。	表現の適正化(mm、小岩片⇒細片化)	95.50	95.71	95.50~95.71m:割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。	
300	95.96	95.96	60° 割れ目に厚1mm/φ10mmの灰白色軟質粘土をはさむ。上盤側厚さ約5mm/mにマンガン鉱染部を伴う。	95.96	95.96	60° 割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側厚さ約5mm/mにマンガン鉱染部を伴う。	表現の適正化(厚=幅、mm、挟む) 上端側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した	95.96	95.96	95.96m:60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mm/mにマンガン鉱染部を伴う。	
301	95.94	98.05	硬さ「D」の岩片状コア主体。時々硬さ「C」も混入する。	95.94	98.05	硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。	表現の適正化(所々、混入する⇒含む)	95.94	98.05	95.94~98.05m:硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。	
302	96.52	97.60	30~40°と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に切られるものもある。(右ズレ3~5mm/m)	96.52	97.60	30~40°と60~70° 割れ目が交差し前者が後者に止められるものもある。切られるものもある。(右ズレ3~5mm/m) 60~70° 割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩級に原岩組織が認められる。	30~40°の割れ目を横断する60~70°の割れ目もあるため変位としたものは一連の割れ目ではないと判断して「切られる」を「止められる」に変更し、変位量についての記載を削除した 割れ目及び周辺の状況について追記した	96.52	97.60	96.52~97.60m:30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩級に原岩組織が認められる。	
303	97.07	97.07	幅2~3mm、15° 石英脈。劣化は伴わず密着。	97.07	97.07	幅2~3mm、15° 石英脈。劣化は伴わず密着。	表現の適正化(mm、伴う)	97.07	97.07	97.07m:15°で幅2~3mmの石英脈を挟む。劣化は伴わず密着する。	
304	97.58	97.69	マンガン鉱染が進み黒褐色化。	-	-	-		97.58	97.69	97.58~97.69m:マンガン鉱染が進み黒褐色化する。	
305	97.69	97.78	硬さ「C」岩片中に固結状の幅1~2mm/φ2mm白色粘土が脈状~φ2~3mm斑点状で分布する。	97.69	97.78	硬さ「C」岩片中に硬質な幅1~2mm白色粘土が脈状~φ2~3mm斑点状で分布する。	表現の適正化(mm) 表現の統一(固結状⇒硬質な)	97.69	97.78	97.69~97.78m:硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの斑点状で分布する。	
306	98.02	98.02	幅2~5mm/m、30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	98.02	98.02	幅2~5mm、30° 石英脈。一部で褐色割れ目化する。	表現の適正化(mm)	98.02	98.02	98.02m:30°で幅2~5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。	

H27-B-3 98.05~100.50m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
307	98.19	98.92	硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。	98.05	98.92	硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。	98.05	98.92	98.05~98.92m:硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟化する部分もある。	-
308	-	-	-	98.20	98.20	50° 割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。	98.20	98.20	98.20m:50°の割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。	-
309	98.92	99.50	硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92	99.50	硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92	99.50	98.92~99.50m:硬さ「D」主体。全体に軟化するが、風化、変質は弱い。	-
310	99.50	99.56	(変質帯)4ランク	99.50	99.56	(変質帯)3ランク	99.50	99.56	(変質帯)3ランク	-
311	99.50	99.68	(岩級区分)D	99.50	99.68	(岩級区分)CL	99.50	99.68	(岩級区分)CLに含める	-
312	99.50	99.68	破砕帯(主せん断面99.56m)	99.50	99.68	破砕部(最新活動帯は99.53mから99.56mの可能性がある)	99.50	99.68	●99.50~99.68m:破砕部 99.50~99.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mm白色軟質粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。色調は明黄褐色(10YR6/6)、厚さ45mm/m	-
313	99.50	99.56	H 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mm白色軟質粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。色調は明黄褐色(10YR6/6)、厚さ45mm/m	99.50	99.56	H 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mm白色軟質粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。やや軟質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は明黄褐色(10YR6/6)、厚さ45mm 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。	99.50	99.56	●99.50~99.68m:破砕部 99.50~99.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m:機混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含む。フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m:砂混じり岩片状部(H) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅55mm。	-
314	99.56	99.57	Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。色調は灰白(7.5YR8/2)、厚さ5~10mm/m	99.56	99.57	Hc-2 38°で上下端とも波打って連続。φ1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒10%程度含むフィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質な機混じり粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ5~10mm。変質を受けて、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	99.50	99.68	●99.50~99.68m:破砕部 99.50~99.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m:機混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含む。フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m:砂混じり岩片状部(H) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅55mm。	-
315	99.57	99.68	H 上端45°で波打って、下端37°で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20mmに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85mm	99.57	99.68	H 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、φ5~20mmに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色(10YR4/3)を呈する。厚さ85mm、硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	99.50	99.68	●99.50~99.68m:破砕部 99.50~99.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目でφ5~10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m:機混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英粒を10%程度含む。フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m:砂混じり岩片状部(H) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅55mm。	-
316	99.68	101.78	CL 上下端側は硬さ「D」、中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化、変質がやや進み硬さ「D」と軟化。	99.68	100.50	硬さ「D」主体。	99.68	100.50	99.68~100.50m:CL 硬さ「D」主体。	-